

キラリよしおか古語り⑧



邦造翁の人となりを表す「謙受益」の篆額

現在、大久保の氏神三宮神社境内にある石碑についてご存知でしょうか。この碑は、養蚕指導をして吉岡町の繁栄に貢献した竹内邦造翁のことが記されています。竹内邦造翁は小淵竹次郎氏の二男で萬延元年（1860年）に生まれました。当時の家族制保持の規定で養子になることで兵役免除される特例を受けるため、竹内家の養子となったそうです。当時竹内家は、大変貧しかったため、邦造翁はこれを挽回しようと、早朝から夜まで懸命に働きました。近くの北下に馬場重久という養蚕指導者がいて、その遺著『蚕養育手鑑』を読み、その火力飼育法（温暖育）を実践し、さらに、一倉

忘れられた養蚕指導者

儀平氏の薪火育（通称いぶし飼法）を学び指導し、これにより地元駒寄村や近隣の村人達の蚕作がよくなり、多くの家が豊かな方向へ導かれたそうです。これらの徳を永久に残すための碑です。篆額（碑面上部に篆書で書かれた題字）『謙受益』（中国の書経によると、この意は満は損を招き、謙は益を受く）邦造翁の謙譲温厚の人となりを表したようです。村の要職にも長く務め、地元産業発展に尽くした竹内邦造翁の功績を、時代の流れの中で埋もれることなく顕彰されていってほしいです。

参考文献：駒寄村史（昭和5年刊行）

編集後記

厳しい冬の間、あれだけ待ち遠しかった桜の花も散り、新緑のまぶしい季節となりました。

春はまた、出会いと別れの季節でもあります。

吉岡町議会の委員会の委員の任期は2年で、現在の委員による編集作業は、本号が最後となります。

吉岡町議会広報は、多くの住民の皆さまのご協力によって成り立っています。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。2年間のご愛読に感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

（坂田 一広）

編集委員

委員長 坂田 一広
副委員長 金谷 康弘
委員 村越 哲夫
竹内 憲明
柴崎 徳一郎
大林 裕子
富岡 大志